

名寄周辺モデル地域圏域検討会 観光ワーキングチーム

(3) 取組により期待される効果及び課題

令和4年度までの取組内容

■ **目的** 地域で住み続けられる環境づくりのため、住み続けたい人・住みたい人や地域外から観光等で訪れる人を惹きつけ、定住・交流の促進による雇用・所得の確保につながる「地域の魅力向上！」

■ 内容と成果

下川町の自然資源を活用した通年観光プロジェクト

下川町を中心に近隣自治体との連携を目指す新たな観光メニューを検討して実証



令和元年度はRiverWalkの拡大と新たにSnowShoeingを実施

誘客多角化のための滞在コンテンツ造成

「WITHコロナ期に適合した観光体験商品の企画・受入体制の構築」として実証



令和2年度「観光農園Clim収穫祭」を実施

インフラを活用した地域活性化

サンルダム(下川町)を活用したツアーや、新たな観光コンテンツの活用可能性について検討するため、WTによるファミツアー及び意見交換会を実施



- <ファミツアー>
- ・サンルダム視察 (ダム内、魚道)
 - ・環境に配慮した地元食材を使ったランチ
 - ・植樹体験
 - ・一の橋バイオビレッジ視察
- <意見交換会>
- ・令和5年度に、広域的なサンルダムを含むモニターツアーを実施することで合意

きた北海道3R観光創出事業

名寄川地区かわまちづくり

名寄市と下川町を結ぶ名寄川河川空間やしもかわ珊瑚湖周辺をサイクリングや散歩などに活用できるよう整備を推進



令和元年度に新たに約8kmの天端を舗装。自転車走行が可能に。



SBW・サイクルツーリズム

北海道のサイクルツーリズム推進方針に基づき、上川と宗谷が連携



R2に「きた北海道サイクルツーリズム連携協議会」が設立
開発局と地域がさまざまなイベントで連携

令和4年度までの取組から得られた課題(今後検討すべき事項)

- **消費額が大きい道外客や外国人観光客、宿泊客の増加が必要**
⇒ 受入環境の整備
 - ・エコ・モビリティ、3R (River * Road * Rail) による観光創出
 - ・サイクルルート等の走行環境等のインフラ整備
 - ・ガイド等の人材育成
 ⇒ コンテンツ不足
 - ・イベントで終わらない通年の観光コンテンツの発掘 (アイスカラーセル等)
 - ・冬季滞在人口の観光への結び付け
- **コロナ禍による観光・プロモーション活動への逆風**
 - ・WITHコロナにも適合したコンテンツ造成の実証事業
 - ・コロナ禍では広域的な「ブランディング事業」をメインに

取組により期待される効果(目指す姿)

- 広域連携による受入体制の整備
→ **外国人観光客、宿泊客増で域内での消費を増やす!**
- 広域マネジメントの強化 (ブランディング)
→ **地域資源の可視化・PRで観光誘致!**
- 広域連携プロジェクトのさらなる育成 (コンテンツ)
→ **サステナブルなコンテンツでリピーター、地域のファンを獲得!**



交流人口の増加

定住人口の増加